

お詫びと訂正のご案内

『消防設備士第5類 令和7年上巻』の記載内容に誤りがありましたことを、心よりお詫び申し上げます。以下の通り訂正いたしますので、お手持ちの本書の該当箇所に加筆訂正をお願いします。

ご迷惑をおかけして大変申し訳ございません。

よろしくお願い申し上げます。

初 版

<p>P111</p> <p>更新：[2025.12.18]</p>	<p>赤字部分を訂正</p>	<p>〔(4) 項に該当する百貨店で、①・②に該当する場合の設置個数〕</p> <p>A. 百貨店の3階で収容人員が50人 …… 適応する避難器具を1個以上設置する。</p> <p>B. 百貨店の3階で収容人員が400人 …… 適応する避難器具を1個以上設置する。</p> <p>C. 百貨店の3階で収容人員が410人 …… 適応する避難器具を2個以上設置する。</p> <p>D. 百貨店の3階で収容人員が800人 …… 適応する避難器具を2個以上設置する。</p>
<p>P309</p> <p>更新：[2025.12.10]</p>	<p>誤</p> <p>正</p>	<p>◎例えば、コンクリート設計基準強度が「18N/mm²以上」で金属拡張アンカーの呼び径が「M10」の場合、許容引抜荷重は「5.7kN」となる。さらに、「固定部に発生する応力」を18kN、金属拡張アンカーの本数を2本とすると、式は次のとおりとなる。</p> <p>(略)</p> <p>〔用語〕コンクリートの設計基準強度は、構造物の大きさや重要度などの要求性能に応じて決められる。コンクリートの強度は調合割合等で異なってくる。よく用いられる設計基準強度は、18kN/m²、21kN/m²、24kN/m²などである。</p> <p>(略)</p> <hr/> <p>◎例えば、コンクリート設計基準強度が「18N/mm²以上」で金属拡張アンカーの呼び径が「M10」の場合、許容引抜荷重は「5.7kN」となる。さらに、「固定部に発生する応力」を18kN、金属拡張アンカーの本数をN本とすると、式は次のとおりとなる。</p> <p>(略)</p> <p>〔用語〕コンクリートの設計基準強度は、構造物の大きさや重要度などの要求性能に応じて決められる。コンクリートの強度は調合割合等で異なってくる。よく用いられる設計基準強度は、18kN/mm²、21kN/mm²、24kN/mm²などである。</p> <p>(略)</p>
<p>P311</p> <p>更新：[2025.11.17]</p>	<p>誤</p> <p>正</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> $T = 0.24DN$ </div> <p>T：締付トルク (kN/cm)</p> <p>D：ボルト径 (cm)</p> <p>N：試験荷重 (設計引抜荷重) (kN)</p> <hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> $T = 0.24DN$ </div> <p>T：締付トルク (kN・cm)</p> <p>D：ボルト径 (cm)</p> <p>N：試験荷重 (設計引抜荷重) (kN)</p>